

台北日本人学校 校長室便り

○12月の台北日本人学校より

12月の話題は、なんとといってもオードリー大臣の来校でした。

周りに気遣いをされるとても優しい方であるのが良くわかりました。また、子供たち一人ひとりの質問にも誠実に答えてくださいました。皆さんへの紹介を忘れてしまい大変失礼なことをしたのですが、通訳は謝佳玲さんという台湾のプロの方でした。IT大臣といえばマスクマップで私たちもお世話になりましたが、そのマップ作りにシビックハッカーと呼ばれる市民のプログラマーとの協力によると当たり前の事として言われた大臣に、なんでも自分の手柄にする人との格の違いを見ました。「自分のやっていることは社会に貢献できるか、これが一番大事ですね。」と言われた言葉に、大臣の行動の全てはこの思いなのだとわかりました。4年生から中学3年生が参加しましたので、難しい内容があったかもしれません。また大臣の言葉も小学生向けということではなく、気遣いをされながらも対等に接してくださいました。だからこそ、子供たちはそれぞれの感性で確実に受け止めたと信じています。大臣からの言葉が子供たちにとってこれからの歩みの良き指針になることを願います。



○我們的朋友（日本人学校の交流校）

今月は現地校との交流活動が色々ありました。小1・2年生は土東國小と、小4年生は蘭雅國小と、小5・6年生は天母國小との交流会でした。また、中学3年生は現地校進学希望者による体験授業で淡江高中にお世話になりました。それぞれの学校は長いお付き合いをいただいている現地校ですが、天母國小とは1985年から、土東國小とは1987年から、そして天母國中とは1992年からと、本校が天母の地に移ってきてから繋がっている大切な朋友です。現地校との交流があってこそこの日本人学校、それぞれが身に付けた中国語と、言葉がなくても通じ合おうというグローバル精神で、活動の後半にはすっかりお友達になっている子供たちの力を頼もしく感じました。

○12月のワンシーン

登校してきた児童が「猫が怪我をしています」と教えてくれました。現場に行ってみるとすでに青年が二人いました。友達でもない二人ですが、怪我をした猫を見つけた青年がスマホで情報を発信したようで、この情報で駆けつけた青年と一緒に猫を救出し病院に連れて行きました。自分に関係のない事なら、素通りしても問題はないのですが、それを立ち止まり、自分ができること（SOSの発信等）をする、そしてその行動に共鳴し行動する人がいる。それぞれが自分のできる範囲で、それでも誰か（何か）の役に立つ行動をしている。このような人が、しかも青年が当たり前に行動できる台湾を一層素敵に思えました。もちろん、教えてくれた児童も一緒ですね。心が温まりました。鳳大臣の「自分の行動は社会に貢献できるか」とも繋がりました。

○令和2年3月末に帰国する派遣教員等のお知らせ

例年12月の校長室便りにて今年度末で帰国・退職する教員をお知らせしています。

令和3年3月に台北日本人学校での勤務を終え、帰国する先生方は以下の10名です。

校長	近藤 裕敏	(30年度派遣・大阪府)	教諭	新内 俊允	(30年度派遣・山口県)
教諭	伊藤 輝	(30年度派遣・福島県)	教諭	麻生紗緒里	(30年度派遣・大分県)
教諭	奥村 直之	(30年度派遣・東京都)	教諭	日高 圭一	(30年度派遣・宮崎県)
教諭	須和美由紀	(30年度派遣・大阪府)	教諭	佐藤みどり	(30年度派遣・熊本県)
教諭	福原くみこ	(30年度派遣・兵庫県)	教諭	平谷 まり	(31年度派遣・鹿児島県)

あと3ヶ月、台北日本人学校の子どもたちと共に充実した時を過ごせるように努めていきます。また次年度の教務部長は中野剛教諭が担当します。こちらもどうぞよろしくお願いいたします。

○年末年始完全閉校のお知らせ

冬休みは12月25日(金)～1月4日(月)です。なお、12月29日(火)～1月3日(日)は完全閉校となります。ご協力をお願いいたします。 **良いお年をお迎えください。**